

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675800090
法人名	社会福祉法人 昭芳会
事業所名	グループホーム 芳明庵
訪問調査日	平成20年11月6日
評価確定日	平成20年12月6日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4675800090
法人名	社会福祉法人 昭芳会
事業所名	グループホーム 芳明庵
所在地	始良郡湧水町般若寺358番地 (電話) 0995-75-4622
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年11月6日

## 【情報提供票より】(平成20年10月24日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年4月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	14 人
非常勤	1 人
常勤換算	14.5 人

## (2) 建物概要

建物構造	①鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平屋建 ②木造セメント瓦葺平屋建
------	---------------------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

## (4) 利用者の概要(10月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 88 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	林内科医院 中村歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれたこのホームは、母体である特別養護老人ホームの敷地内に、ヘルパーステーション等とともに隣接して建てられており、地域における高齢者介護の拠点として大きな役割を担っている。職員は、利用者ができる事を一人ひとりのペースで行う様子を優しく見守り、その人らしい生活が送れるようにさりげなく支援している。管理者を先頭に、現状に満足することなく、常に問題意識を持ちながらケアを行っており、更なる質の向上に向けた取り組みが期待されるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の内容を職員間で検討し、地域密着型としての理念を加えた独自の理念を掲げている。多機能性を活かした支援については、外出支援やご家族の宿泊など、本人やご家族の希望に応じて柔軟に対応している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ビデオを教材として評価についての研修や話し合いの機会を設けており、職員は共通理解のもとで自己評価に取り組んでいる。日々を振り返り、意識統一を図る機会として評価の意義をとらえ、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政担当者や地域住民等が参加し、会議ではなるべく専門用語を使用せず、出席者に認知症やグループホームの役割を理解してもらえるように配慮している。参加するメンバーの職種、立場等を期間ごとに変更することで様々な意見が出るように工夫しながら、ホームの運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	同じ境遇にある家族同士で話すことで思いを表出しやすいようにとの考えから、年に1回懇談会を開いている。また来訪時には声かけし、日常的な会話の中から、ご家族の思いを汲み取り対応するように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭や敬老会に参加したり、中学生の体験学習を受け入れるなど、地域との交流に努めている。地元の住民がホームに立ち寄ることはさほど多くはないが、常に声かけをして働きかけており、更に開かれたホームになることを期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を職員間で検討し、地域密着型サービスとしての理念を加えた上で、法人の理念を基に独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたケアの実践が行えるように、朝のミーティングや援助会議で話し合う場を設けている。事業方針の中に理念の具体的な取り組み方法を明示して、ケアの統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や敬老会に参加したり、中学生の体験学習を受け入れるなど、地域との交流に努めている。地元の住民がホームに立ち寄ることは少なく、常に声かけをして働きかけている。		地元の方々が立ち寄る機会が増え、更に開かれたホームとなるように、地域への働きかけを続けていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ビデオを教材として評価についての研修や話し合いの機会を設けており、職員は共通理解のもとで自己評価に取り組んでいる。日々を振り返り、意識統一を図る機会として評価の意義をとらえ、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではなるべく専門用語を使用せず、出席者に認知症やグループホームの役割を理解してもらえるように配慮している。参加するメンバーの職種、立場等を期間ごとに変更することで様々な意見が出るように工夫しながら、ホームの運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは電話や直接出向いて相談したり、運営推進会議の後に話す機会を作るなどして、課題解決に向けて連携している。		運営推進会議後以外にも行政担当者が立ち寄る機会が増えるように働きかけ、連携が更に強化されることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される便りに、利用者毎に職員がコメントを添えて日々の暮らしぶりを伝えている。希望に応じて他のご家族にも送付している。金銭管理については、領収書(写)により報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「認知症の人と家族の会」代表とご家族との懇談会を設定し、職員抜きで気兼ねなく率直な意見が表現できるように工夫している。また、日常的な会話の中から、ご家族の思いを汲み取り対応するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は避け、馴染みの職員と継続した関係が築けるように配慮している。やむを得ず異動がある場合は、自己紹介や顔写真を使用して、利用者になるべく早く顔を覚えてもらうように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームおよび法人で行われる研修や外部研修への参加を促し、職員が学びの機会を持てるようにしている。しかし、職員を段階に応じて育成するための研修計画は今のところ策定されていない。	○	内部および外部研修の計画を立て、職員の知識や経験、習熟度等に応じた学びの機会を確保できるように取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人間で交流のあるグループホームと年1回交換研修を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には本人とご家族に見学をしてもらい、しばらくホームで過ごして雰囲気を感じてもらおうようにしている。体験宿泊の準備を整え、馴染みながらサービス開始ができるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ができる事を把握し、十分に力が発揮できるような場面作りをしている。職員は利用者との会話を大切にしており、会話の中から学び敬う姿勢が伺える。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者に関心を持ち、会話や表情の変化に注意しながら、利用者の意向を把握するように努めてケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個人別のケース記録に書かれた職員の意見や、利用者に関わりのある様々な立場の関係者の意見を取り入れて担当者会議を開催し、その人らしい介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回見直しを行っている。作成した計画はモニタリングを行い、利用者の状態の変化に応じて変更するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や理美容院への外出支援、ご家族の宿泊受入など、本人およびご家族の希望に応じて柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望でかかりつけ医を決めている。基本的に通院支援はご家族にお願いしているが、遠方などの理由で困難な場合には職員が対応しており、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況の変化に応じて、本人およびご家族から重度化や終末期についての意向を確認しており、内容は記録に残している。ホームとしての方針は、ミーティング等において関係者間で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する同意書を作成し、適切な管理に努めている。新人研修にプライバシー保護についての内容を取り入れ、秘密保持についての教育を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向や生活のペースを大切にしており、食事や入浴の時間についても柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	卓上コンロを使用し、座ったままでも調理に参加できるように工夫している。買い物や調理、片付けなど、職員は利用者一人ひとりができる事を把握して、一緒に行うようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉を楽しめるようになっており、入浴日は決めず、一人ひとりの希望に合わせて入浴できる。拒否のある方には、タイミングを計りながら声をかけ、安心して入浴できるように支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントで本人の得意な事や好きな事を把握して、日常生活の中に取り入れながら、張りのある生活が送れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日屋外に出る機会を持ち、開放感のある生活が送れるように支援している。買い物や精米など、一緒に外出する場面をなるべく多く作り、ホームの中だけで過ごすことがないように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけておらず、自由に出入りできるようにしている。職員同士で注意し合い、利用者の行動に目を配りながら安全な生活が送れるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内の施設とともに消防署の協力を得て避難訓練を行っている。地域住民にも日頃から働きかけており、災害時には協力が得られるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーおよび水分量のおおまかな目標を立て、確実に摂取できるように支援している。年に1回、栄養士からの指導を受けており、栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔のダンスや和風の間接照明を設置して、落ち着いた雰囲気を醸し出している。イスが多めに置かれており、利用者が思い思いの場所で過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と話し合い、家具の持込みなどを検討して、本人が安心して過ごせる空間作りに努めている。		